

2021.1.17 説教
顕現後第2主日

「来て、見なさい」（網を捨てる）

ヨハネ 1 章 43-51

◆フィリポとナタナエル、弟子となる

1:43 その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、
フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。

1:44 フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身で
あった。

1:45 フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、
モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。
それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」

1:46 するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだ
ろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と
言った。

1:47 イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼の
ことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。
この人には偽りが無い。」

1:48 ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのです
か」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリ
ポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見
た」と言われた。

1:49 ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あな
たはイスラエルの王です。」

1:50 イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたが
いるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なこと
をあなたは見ることになる。」

1:51 更に言われた。「はっきり言っておく。天が開け、神の天
使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見る
ことになる。」

私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とがあなたがたにあるように。

新約聖書には4つの福音書があります。すなわち、4人の福音書記者による、4つのイエス様のストーリー・ご生涯の物語があるということです。

4人の福音書記者は、それぞれの視点を持ち、それぞれにキリストを伝えたい対象者を絞って語り伝えています。

教会の伝道もまた、誰に、どのように伝えるのかを、時と場合ごとに私たちは真摯に考え、語り合い、行動することが大切です。

本日の主日のテーマ・主題は、「イエス様の弟子の召命」です。従来の日課によれば、4人の漁師たちがイエス様に声を掛けられ、従ってゆく場面が読めます。それは漁師であった彼らが伝道者となるのですから「網を捨てる」出来事と言えます。

本日の説教題は、従来の聖書日課表と新しい聖書日課表の取り違いから、従来のマルコ福音書1章14節以下の箇所で「網を捨てる」と予告しておりましたが、同じ「弟子の召命物語」ではありますが、改めまして、新しい聖書日課のヨハネ1章43節以下から、「来て、見なさい」というタイトルで説教致します。

(よって、ロビーの礼拝奉仕表の聖書箇所も新しい聖書日課に差し替えましたので、奉仕者として記名された方は、当日の聖書箇所の変更をご確認ください)

ヨハネによる福音書は最後に書かれた福音書です。ローマによる熾烈な迫害を体験した人々による証言でもありますから、先に書かれた3つの福音書とは大層異なります。

本日は、このヨハネ福音書1章から、異色の「イエス様の弟子の召命物語を読んでまいります。

まず、本日の聖書日課の直前の箇所ではありますが、ヨハネ1章35節を見ますと、洗礼者ヨハネが弟子2人と歩いている場面から始まります。

彼らはイエス様と遭遇すると、洗礼者ヨハネが「見よ、神の小羊」と証言したので、ヨハネの弟子はイエス様に従って行きます。

そして、1章40節、

「ヨハネの言葉を聞いて、イエスに従った二人のうちの一人は、シモン・ペトロの兄弟アンデレであった」

と、イエス様の最初の弟子となったのはアンデレであったと紹介されています。

このニュースだけでも驚きです。

なぜならば、ヨハネ以前の福音書では、イエス様の最初の弟子は、漁師であったシモン・ペトロであると伝えられていたからです。

しかも、1章41節、

「彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、「わたしたちはメシア——『油を注がれた者』という意味——に出会った」と言った。

そして、シモンをイエスのところに連れて行った」

とあり、兄ペトロにイエス様を紹介したのはあんでれであるとしています。

このアンデレ、ヨハネ以前の福音書では、最初に弟子とされた4人の漁師の1人であるにも関わらず、その後、ペトロ、ヤコブ、ヨハネの3人に比べて、重要視されない不遇の立場に追い遣られています。

福音書記者ヨハネは、このアンデレに注目し、際立たせ、アンデレに弟子としてのストーリー・物語性を持たせています。

のちにイエス様の弟子とされていく、どの弟子たちよりも先んじて、アンデレはまず洗礼者ヨハネの弟子として決心し、すでに悔い改めを促す洗礼活動に参加していたのだと、彼の精神性の高さと行動力を紹介しています。

著者ヨハネが登場人物にストーリーを持たせているのは、アンデレだけではありません。

闇夜に隠れてイエス様を訪ねる議員のニコデモ、マルタとマリア姉妹それぞれの信仰と生き様、ラザロの復活、弟子のトマス、そして、本日のフィリポとナタナエルのストーリー。

著者ヨハネは、イエス様と関わる者たちのドラマを映し出すことによって、彼らの人間としての弱さ、にもかかわらず注がれるイエス様の深い憐れみ、そして、救いへと招かれる幸いについての証言者として、丁寧に、印象深く描く「書き手」であると言えます。

さて、フィリポとナタナエルがイエス様の弟子とされる出来事を見てまいります。

フィリポに関しては、ヨハネ以前の3つの福音書では弟子のリストに名前があるというだけの存在です。ナタナエルに関しては、過去の弟子のリストには名前さえ載っていません。ヨハネ福音書だけが紹介する弟子というわけです。

そもそも、ヨハネ福音書には、いわゆる「イエス様の12人の弟子たち」というリストそのものがないのです。

強いて挙げるならば、21章の2節、(この21章は、後代に教会によって補足された部分ではありますが、)

「シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち(ヤコブとヨハネ)、それに、ほかの二人の弟子(アンデレとフィリポか?)と一緒にいた」

とリストらしき記述があるだけです。弟子としては、ほかにイエス様を裏切ったユダがおり、それでも8人を数えるばかりです。

44節、「フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった」

とあります。ヨハネ福音書以前には素性の分からない弟子でありましたが、漁師ペトロと同じ、ガリラヤ湖のほとり、ベトサイダの出身であると紹介されています。もちろん、アンデレとペトロとも顔見知りであったこともうかがえます。素性が分かると親近感も増すというものです。

43 節、「その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、『わたしに従いなさい』と言われた」

フィリポはイエス様の「わたしに従いなさい」との呼びかけに打たれ、従う者とされます。

45 節、「フィリポはナタナエルに出会って言った。『わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ』」

イエス様をメシア・救い主であると確信したフィリポは、ナタナエルに出遭い、「約束の人」に出会ったことを証言します。

にもかかわらず、46 節、

「するとナタナエルが、『ナザレから何か良いものが出るだろうか』と言ったので、フィリポは、『来て、見なさい』と言った」

ナタナエルは、正直にもナザレという町の辺鄙さから、何の期待も持っていない心情を述べざるを得ません。そこでフィリポが発した言葉が「来て、見なさい」でありました。

フィリポの全身全霊による確信を持った呼びかけが響きます。

福音のリアリティ・喜びの実感というものが伝わってきます。

私たちの今に置き換えて言うならば、「教会に、来て、見なさい」ということになるでしょう。

さらに、教会には、福音・喜びの知らせがあり、聖餐式によりキリストの恵みが分かち合われ、信徒の交わり、祈られる体験がある、ということでありましょう。

そこにキリスト者としての確信を持っている、証言です。

続いて、ナタナエルのストーリーが展開されます。

47 節、「イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。『見なさい。まことのイスラエル人だ。』この人には偽りがない」

イエス様はナタナエルをご存じでした。

48 節、「ナタナエルが、『どうしてわたしを知っておられるのですか』と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた」

49 節、「ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」と、ナタナエルはイエス様をメシア・救い主とする告白へと導かれます。

ナタナエルを驚かせたものは、イエス様がナタナエルのことを「知っていた」という事実にあります。

そうです。信仰は神を知る・キリストを知るだけでは始まりません。「神に知られていた」という気づきと体験を通して、人は信仰に出会い、信仰が芽生えるものでありましょう。

50 節、「イエスは答えて言われた。『いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる』」

1 章で、このようなナタナエルとの問答を提示したヨハネ福音書ではありますが、福音書 20 章の巻末では、弟子トマスのストーリーを展開して最後のメッセージを述べています。

それは、20章27節、

「それから、トマスに言われた。『あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。』トマスは答えて、『わたしの主、わたしの神よ』と言った。イエスはトマスに言われた。『わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである』」

イエス様は、ナタナエルに「もっと偉大なことをあなたは見ることになる」と告げられましたが、それは1章51節が告げる、「天が開く」ことによる世界でありましょう。

神に向けて私たち人間の目が開くのではない。私たちに向けて天が開くことに福音があり、驚きがあり、私たちの救いがあるのです。

「望みの神が、信仰からくるあらゆる喜びと平安とをあなたがたに満たし、聖霊の力によって、あなたがたを望みに溢れさせてくださいます」